

2018年度 事業報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

社会福祉法人紅葉会

I. 法人本部

1. 理事会開催実績

開催年月日	出席理事数	出席監事数	審議決定した事項
2018.05.28	6	3	2017年度決算／社会福祉充実残額／2017年度事業報告／経理規程の改定／定時評議員会の議題と議案／ちどり保育園の空調設備の更新と補正予算
2018.07.03	5	3	ちどり保育園のホール空調設備新設工事
2018.08.20	6	3	玄海風の子保育園の施設変更届／臨時職員の定年／処遇改善等加算Ⅱ
2018.10.30	6	2	第一次補正予算／大島へき地保育所の処遇改善等加算Ⅱのあつかい／臨時職員の60歳以降の働き方／法人・施設の運営体制
2018.12.27	5	1	2019年度以降の体制／玄海風の子保育園分会への回答／常勤役員の報酬／就業規則の変更
2019.02.13	6	3	12月までの収支／就業規則の変更／学童保育の利用料改訂／業務執行理事の役員報酬／評議員会の開催
2019.03.25	5	2	第二次補正予算／2019年度事業計画／2019年度当初予算／2019年度の常勤運営体制／給与規則の改訂／役員報酬の改訂

2. 評議員会開催実績

開催年月日	出席評議員数	出席監事数	審議・決定事項
2018.06.16	6	3	審議：保育をめぐる情勢／理事会報告／2016年度事業報告 決定：2017年度決算の承認／役員の報酬に関する細則の改訂
2018.12.08	4	2	審議：保育をめぐる情勢／理事会報告

3. 監事監査実績

(1) 監査実施日他

区分	内容
監査実施日	2019.05.30
出席監事	岡慎和、安部早知子、池永修
立会理事	小寺安、原田秀一、井上邦子、奥村美香、奥村智美

(2) 監査報告書の内容

区 分	監 査 結 果
法人の財産状況	財務諸表は社会福祉法人紅葉会の2019年3月31日現在の財務状態を適正に表示している。 2018年度の事業活動について適正に表示している。

(3) 指導監査の結果

《法人本部：書面監査》

《ちどり保育園：書面監査》

指 導 内 容	実 施 内 容
《口頭指導》 【経理事務】 1. 国庫補助金等特別積立金取崩の過年度修正をする場合は、P/Lのサービス活動増減の部ではなく、特別増減の部に過年度修正として該当する金額を計上すること。	■ 決算数値に誤りがあったわけではないが、今後、当該ケースが発生した場合は指導に従うこととする。

《玄海風の子保育園：指導／宗像市》

指 導 内 容	実 施 内 容
【児童処遇】 1. 土砂災害警戒区域内の施設に義務付けられている「避難確保計画」を作成し、訓練を実施すること。	■ 「避難確保計画」を提出した。 ■ 訓練はこれまでも実施してきた。

II.2018年度事業の概括

1. 平和、社会福祉・保育をとりまく状況

- (1) 2018年10月9日に開催された財政制度等審議会において、財務省は公定価格の水準の見直しを根拠づけるための資料を提出した。過去に持ち出されたものも含め、これらの資料は結論を導き出すために都合のよいものばかりである。審議会に出された「改革の方向性(案)」には、重大な政策変更が示されている。それは①公定価格の水準の見直し(=引き下げ)、②公定価格の算定の見直し(=包括的報酬体系)の二つである。二つの政策変更は、介護分野に現れている深刻な事態が保育分野に持ち込まれることを意味する。その結果、保育所経営は事業の継続を見通すことが容易でなくなる。子どもの処遇は引き下げられ、権利としての保育の保障さえもが危うくなるという現実には私たちは直面することになる。所管の違う財務省の審議会であるということで批判を緩めるなら、公定価格の“非適正化”が現実のものとなる。この段階での的確な批判と運動が私たちに求められている。
- (2) 待機児解消は安倍政権の主要課題の一つであるが、政権が繰り返す対策が隘路となってその解決を阻むという矛盾を生じさせている。“保活”や“保育難民”等の新語が次々に生まれるほどに問題は深刻であり、子育て世代にかかる重い負荷が取り除かれる道筋は未だ見えてこない。保育士不足がそれに拍車をかけている。鳴り物入りで創設された「処遇改善等加算Ⅱ」は、保育士確保に有効に働いていないばかりか、賃金格差によって同僚性・共同性を特徴とする保育労働が歪められる事態となっている。加算に必須とされるキャリアアップ研修も、全員受講終了の見通しは全くない。加算Ⅱは全産業平均より月額10万円以上も低い保育士の賃金実態が反映されておらず、抜本的な処遇改善とは言い難い内容であ

- る。公定価格の基礎分に積算される人件費の大幅引き上げなしに保育士処遇の抜本的な改善はできないことを確認し、加算Ⅱの廃止を要求する。
- (3) 2017年の総選挙で自民党の公約に突然盛り込まれた「幼児教育・保育の無償化」は、2019年の通常国会に法案が提出され、5月10日の参議院での可決により成立した。消費税の引き上げが予定通り実施されるなら、2019年10月の施行となる。保育分野の喫緊の課題は、保育を必要とするすべての子どもに対し、質の確保された保育施設での保育を保障することである。保育料の『無償化』は、その限りにおいて子育て世帯の負担軽減につながるものである。しかし、無償化の財源が逆進性の強い消費税であること、無償化の対象が3歳以上児に限定されていること、さらには、認可外保育施設の基準さえも下回る施設・事業まで対象が拡大され保育の質の確保が危ぶまれるなど、保育分野の課題に沿うものとは言い難い。無償化にともない、保育費用である給食材料費の実費徴収が方針化されていることも重大である。保育所給食の食材料費の実費徴収化は、保育と給食の分離、応能負担から応益負担（実費負担）への転換など、保育所が積み重ねてきた保育のあり方を大きく変え、保護者にも負担を強いるものであり、認めることはできない。待機児解消、保育士処遇の抜本改善、職員配置基準の引き上げなど、保育分野には待ったなしの課題が山積している。「幼児教育・保育の無償化」は、これらの課題の連関のなかで検討されなければならない。拙速な法制化は認められない。客観性をもって政策の優先順位を定め、これにもとづく予算執行が求められている。
- (4) 子どもの健やかな成長の土台である平和の問題も、風雲急を告げている。安倍首相は7月の参議院選挙公約に9条の条文追加を盛り込む方針である。9条3項への自衛隊の明記は戦力不保持を謳った同2項を死文化させるもので、国際社会における日本の位置を180度転換させるものである。改憲の国会発議をめざした衆参両院憲法審査会での本格論議も準備されている。権利の最大の剥奪者が戦争であることを考えなら、この問題での共同も私たちの重要課題である。
- (5) 私たちは、困難と思われていた児童福祉法24条1項の復活を実現させた。公的保育制度の根幹となる市町村の保育実施義務は、今も維持されている。24条1項に規定される私立認可保育園の存在は、市場化された認定こども園等に対する規範的な役割を果たしている。入所できなかった保護者による不服申し立てなど、24条1項をよりどころに、新たな運動も各地で広がっている。保育を必要とする子どもが、等しく保育が受けられる状況をつくりだすことは、保育関係者はもとより、多くの保護者の共通の要求である。ウイングを広げ、共同を飛躍させることが求められている。
- (6) 福祉の市場化は福祉を必要とする人の権利の後退を必要条件として進行する。市町村の保育実施義務を規定した児童福祉法24条1項、そして、権利としての保育が保障された140万の子どもと1.5万もの私立認可保育所の存在は、権利保障の対極として福祉の市場化に圧力をかけるに十分な存在たり得る。広い視野をもって24条1項を守り活用することが今、私たちに求められている。

2. 決算の概括

(1) 法人

- 1) 保育事業収益は370,614,031円で前年を7,094,685円下回った。寄付金収益を加えたサービス活動収益は前年対比で6,868,724円の減となった。大島へき地保育所の2歳児の入所数が減ったこと、および、保育士確保ができず、ちどり保育園が0歳児の期中入所希望者を受け入れられなかったことが主要因である。
- 2) サービス活動費用は366,576,277円で、前年を14,527,171円下回った。期中採用がで

きなかったことによる臨時職員の人件費の減、および、事務費の修繕費の減が貢献した。給与費用の多くを占める人件費は 295,390,809 円で、前年を 7,999,500 円下回ったが、人件費率は 79.3%と引き続き高い水準である。人件費は保育の質を決定づける最大の根拠であるが、適正な比率を超えては子どもの処遇につながる事業費が圧迫されかねない。バランスのとれた費用支出のための対策が求められている。

- 3) サービス活動増減差額はプラスに転じ、5,929,663 円となった。前年より 7,658,447 円の改善である。しかし保育士確保の見通しはたっておらず、安定した児童の確保が見込まれる状況にはない。職員の負担も増しており、緊急の改善が要請されている。
- 4) サービス活動外増減を加えた経常増減差額は 8,315,720 円で、前年より 7,721,722 円の増額となった。
- 5) 当期活動増減差額に前期繰越活動増減差額を加えた当期末繰越活動増減差額は 8,315,720 円で、前年度の 593,998 円から大きく改善した。
- 6) 積立金取崩 5,590,000 円、積立金積立 1,500,000 円の剰余処分を行ったあとの次期繰越活動増減差額は 146,819,045 円で、前年より 12,405,720 円の増額となった。
- 7) 自己資本の意味をもつ純資産は 2,607,446 円増の 396,431,657 円となった。資本の安定度を示す自己資本比率は、前年より 1.4%上げて 93.4%となった。
- 8) 支払資金の有高をしめす当期末支払資金残高は、6,574,581 円増額の 100,906,233 円となった。支払資金の余裕度を示す流動比率は 850%であることから、経営の安全性は担保されているものと判断できる。

(2) 施設

- 1) ちどり保育園は、委託費収益が前年を 2,913,900 円下回り、196,478,600 円となった。その他の事業収益も 959,140 円の減額となったため、サービス活動収益は 4,312,079 円減の 213,396,023 円となった。一方、サービス活動費用が 7,509,400 円の減額となったため、サービス活動増減差額は前年を 3,197,321 円改善し、5,884,749 円となった。人件費が前年を 6,188,578 円下回った。サービス活動収益も減額となったが、減額幅は小さく、人件費率は 2.3%改善して 78.8%となった。当期活動増減差額は 1,202,480 円改善し、前期繰越活動増減差額と積立金積立額を加えた次期繰越活動増減差額は、51,785,592 円となった。2019 年度は定員を大きく割ったスタートとなった。児童の受け入れによる安定した委託費収入のために、保育士確保が喫緊の課題となっている。
- 2) 風の子保育園は、委託費収益の前年を 2,889,580 円上回り、118,527,500 円となった。その他の事業収益も 1,263,967 円増額したため、サービス活動収益は、3,998,547 円増の 124,557,527 円となった。人件費、事業費、事務費がすべて前年比を下回ったため、サービス活動増減差額は 9,712,657 円増額の 3,782,116 円となった。人件費率は 3.0%下げて 78.0 となった。当期活動増減差額は 2,933,850 円で、前期繰越活動増減差額と積立金取崩額を加えた次期繰越活動増減差額は、2,933,850 円増の 46,726,469 円となった。
- 3) よりどりちどり館はその他事業収益（利用料）が 834,300 円減少し、8,403,800 円となったが、経常経費寄付金収益が 1,088,000 あったため、サービス活動収益はほぼ前年を確保した。一方、人件費、事業費、事務費ともに前年度を下回ったため、サービス増減差額は 618,675 円改善し、-3,815,151 円となった。しかし、収支のマイナス基調は続いており、抜本的な改善の手立てが求められている。人件費率は 8.5%の改善があったが 110.9%と高い水準に変わりはない。単独での事業の維持がむずかしい財務構造となっており、2019 年度より利用料の引き上げを決定している。子ども・子育て支援新制度で学童保育が給付対象事業として位置づけられていることから、よりどりちどり館を給

付対象とするようひき続き福岡市に働きかけることが重要になっている。

- 4) 大島へき地保育所は、2歳児が10名から4名に減ったため、その他事業収益（指定管理費）が6,549,892円減額の25,060,590円となった。これにともない、サービス活動増減差額は前年より5,924,156円減の4,245,135円となった。本部繰入後の当期活動増減差額は1,285,135円となった。大島へき地保育所の財政は児童数の変動により大きく左右される。これは構造的な問題であり、安定運営のための方針化が宗像市に求められている。当期末支払資金残高は運営の安定が確保できる水準の24,348,515円を確保している。

3. 課題

- 1) 子ども・子育て支援法の施行から4年が経過したが、待機児問題は深刻さを増すばかりである。国は基準を緩和して入所定員数の確保に懸命だが、まったく追いついていない。公定価格（保育の費用）の施設類型間の格差も拡大している。幼稚園の教育機能を強調し、養護と教育を一体的にすすめる保育所の機能をことさら低く評価した結果である。公定価格の格差は子どもの処遇に直結しており、開所時間に見合う公定価格の是正が急務といえる。紅葉会は児童福祉法24条1項にもとづき保育所経営を貫くことを決定し、保育が必要なすべての子どもが格差なく保育が受けられるよう運動をすすめてきたが、具体的な問題点をひろいあげ、国・市町村に対し改善を求めることが重要な課題となる。
- 2) 処遇改善分が公定価格の加算分に位置づけられ3年が経過したが、全産業との賃金水準は月額10万円にもものぼる。紅葉会は法人独自に正規職員・臨時職員給与の処遇改善をすすめてきたが、保育士の確保につながっていない。2019年度予算で、処遇改善の1%積み増しが計上されたが、賃金水準の抜本的な改善にはほど遠い。処遇改善等加算Ⅱは、職員間の賃金水準に格差を生じさせており、保育現場に混乱を招いている。退職共済制度継続の運動も引き続き必要である。保育士の処遇改善と保育の質に連動する職務の蓄積を保障する財源の確保のために、保育園経営者間の連携が重要になっている。
- 3) 人件費率は80%と引き続き高い水準である。保育士の処遇改善と適正な人件費率の確保というむずかしい対応となるが、両者を統一的にすすめるなければならない。子どもの処遇を確保しつつ、業務の効率化と経費の見直しが求められている。
- 4) ちどり保育園と玄海風の子保育園は施設の老朽化がすすんでおり、中・長期的な修繕計画と資金計画の策定が求められている。
- 5) 宗像市立大島へき地保育所は、2019年度で指定管理3期2年目に入った。通算9年の保育実践をもとに保護者・地域との信頼関係をさらに深め、保育のさらなる前進を目指す。
- 6) 2019年度は、紅葉会の綱領確定2年目の年度となる。きびしい保育情勢のなか、綱領を土台に役職員の方針への結集と協働を前進させる。“本部機能の確立と強化”、“財政の健全化”、“保育観の一致”という課題は、一定の成果を確認することができる。経営管理体制の蓄積も着実に前進しているが、2019年度以降の本部運営体制の移行準備が喫緊の課題となっている。これらの課題を達成させるための重要な年度として2019年度を位置づける。

Ⅲ.ちどり保育園

1. 入所児童の延べ人数

年齢別	当初計画	実入所数	増減
乳児	218	200	-18
1・2歳児	876	864	-12
3歳児	444	446	+2
4歳児以上	888	828	-60
合計	2403	2338	-65

4月197名スタート、引越し等の出入りが多く入れ替わりがあるものの、3月末は194名と受け入れ増にはならなかった。3歳以上児は異年齢クラスのメリットを生かし、年齢ごとの人数にこだわらず柔軟に受け入れが出来るようになった。0.1歳児の入所希望は多いが体制面から十分な受け入れができなかった。

2. 職員の配置数

(1) 正規職員

職種	配置計画	期首配値	増減	年度末
園長	1	1	0	1
主任保育士	1	1	0	1
保育士	17	17	-1	16
調理員	3	3	0	3
事務長	1	1	0	1
事務	1	1	0	1
合計	24	24	0	24

・保育士1名が2月より産休に入った。

(2) 臨時職員

① 常勤職員

職種	配置計画	期首配置	増減	年度末
保育士	11	9	-2	9
調理員	1	1	0	1
合計	14	12	0	11

・保育士確保が難しかった為、昨年の配置より2名少ない状況でのスタート。
3歳以上児クラスの職員配置を(8名⇒6名)にした。保育士の確保ができ次年度途中からの配置を目指したが年度末まで難しかった。
また、1名が1月より産休に入った。

② 非常勤職員

職種	配置計画	期首配置	増減	年度末
保育士	5	4	-1	3
調理員	1	1	0	1
その他	2	2	0	2
合計	8	7	-1	6

保育士は、勤務形態にかかわらず確保が厳しい状況で引き続きの課題である。
週休代替保育士が、年度途中で引越のため1名退職。その後、求人をするも確保ができなか

った。

3. 2018年度 保育の重点方針と実践

下記の重点方針のもと、学習と実践の統一をすすめ、日常の保育内容と行事内容を深めた。

(1) 日常運営

1) 社会福祉法人紅葉会の職員として「綱領」「保育要綱」を基に。

・年度初めにテーマ“私たちのめざすものを語り合い、仲間とともに保育をつくっていきこう！”を職員間で確認した。

仲間との共同

・民主的な運営の中で、一人ひとりが自分の役割と責任をもって、仲間と共同するために何ができるか。日常の保育の中でのコミュニケーションについても考えあった。一人ひとりの思いや悩みが出せているか？発言しやすい会議のあり方や意思伝達、情報共有の仕組みなども見直しをしていった。

・前年度より保育士が2名少ない配置でのスタートだった為、上クラスにチームリーダーを1名増員し、主任・園長と共に連携を強める運営体制を作った。年度途中で保育士の休職（産休）、退職なども重なり、更に欠員が出るも補充が出来なかった。しかし、クラスを超えて職員間の連携が強化され運営をすることが出来た。

姉妹園（風の子保育園・大島保育所）からも保育の応援に来てもらう機会があった。

改めて、法人間の協力共同の意義について考えることが出来た。

今後に繋げていきたい。

安全衛生管理

・保育園が命を守る現場である責務を再認識し、日常のヒヤリハットや事故の検証と再発防止等、職員間で共通確認をする機会を定期的に持った。

・7月に大雨で避難勧告が出た。子どもの安全確保、保護者への連絡など危機管理については、よりよい対応にむけて今後の課題となった。

・散歩中の人数確認が不十分で園児を見失う、食物アレルギー児の誤食などの事例があった。子どもの事故、ケガの発生については職員間で事実を共有し、状況の把握（原因）と対策を強化し再発防止に努めている

・リスクマネジメントの観点からも安全な環境についても見直しをし（施設整備）、スロープの設置をした。また猛暑の対応としてエアコンの取替など対策を行った。衛生面でも感染症対策など蔓延防止のため汚物処理など対応を徹底し、保護者にも周知をした。事故報告のデータ化やヒヤリハットの記録から職員間で問題を共有し共通の認識とする事ができた。引き続き、事故防止に努める。

働きやすい職場づくり

・安心して働ける環境をめざす為、心理カウンセラーと連携し「心の相談室（リフレッシュルーム）」を継続設置した。また、衛生委員会を設置し、産業医との連携で職員の働きやすい職場づくりを目指している。職員が主体的に情報発信や問題提起をしていく雰囲気が作られている。職員の健康づくりの為に調理師による「簡単食事メニュー」の実践講座など実施した。

共育て共育ち

・「共に育て育ちあう」ちどりの保育の歴史（保育理念）は、家庭地域が大きく変わる今だからこそ大切なテーマである。朝夕の送り迎えの時間も保育者と親をつなぐ大切なコミュニケーションの場であると捉え、聴く「受容する」心をつなぐ「信頼関係」ひびきあう「共感」を大切にした。子どもの成長を一緒に喜びあい、子育ての悩みも出し合えるように、園と家庭をつなぐ仕組みづくりを大切に取り組んだ。

（連絡帳・公開保育・クラス懇談会・父母の会との連携など）

- ・行事のあり方についても、猛暑の中での取り組み（平和夏祭り）や運動会など、「何を大切にするのか？」その都度、父母の会とも連携し検討している。

(2) 保育内容

1) 「一人ひとりを大切に作る保育」「一人ひとりの子どもの成長発達を助ける保育」

- ・子ども一人ひとりの人権と人格を尊重するとは、どういうことか？子どもの主体性を育む保育とは？日常保育の実践の中から学習し分析し、仲間と共有し共通認識することを大切にしたい。（実践記録検討・ビデオ分析など）
- ・「障がい児保育」療育センターと連携し、学びながら統合保育の実践を深めた。また、外国籍の子どもの受け入れ（異文化理解）もあるが、お互いを尊重し合い、互いの違いをありのまま受け入れ、一人ひとりに個性、違いがあることを当たり前のこととして、認め合える関係づくりを大切にしている。

2) 異年齢保育

- ・3.4.5歳児の異年齢保育が3年目を終え、継続した保育の中から成果も見えてきた。異年齢での多様で豊かな関わりが「自信」や「主体性」「憧れ」や「安心感」という形で子どもたちの中に積み重なっていることが感じられる。子どもたちが保育園でも家族のように、安心して過ごせる場所であるように、そして、異年齢集団の中で、お互いに受容され認められ、自信や自己肯定感を育ていけるように更に実践を積みあげる。クラスを越えての職員間の情報共有と学びの工夫が、今後の課題である。1.2歳児混合のクラス編成も1年を終え成果と課題がみえてきた。次年度に繋げる。

(3) 地域子育て支援事業

- 1) 学童保育「よりどりちどり館」は地域に根ざした施設を目指し、実践を積み上げている。また卒園児の居場所づくりとして、OB 保護者の協力も得ながらの「子ども食堂」も2年が過ぎた。現在は、福岡市の助成金を受けているが、今後の運営資金、ボランティアスタッフの確保など課題がある。
- 2) 地域子育て支援としては毎月の「なかよしクラブ」「赤ちゃんクラブ」を実施。育児相談等もうけている。その他「卒園児・小・中・高校生との交流」、「在園児保護者との連携と家庭支援」等、地域の実態や子育ての要求を把握し今後の支援につなげる必要がある。

4. 通常保育の年間行事

月	主 な 行 事
4	入園式・歓迎遠足・園説明会・下クラス懇談会・上クラス懇談会
5	第1回父親交流会（風の子園庭整備・竹取り）・くじら組春合宿（和白干潟）
6	下クラス公開保育・ぎょう虫検査・園児検診①・歯科検診①
7	上クラス公開保育・平和夏まつり・園外保育
8	七夕と語り部
9	上クラス懇談会・下クラス懇談会・敬老のつどい・尿検査・園外保育 第2回父親懇談会（長縄あみ）
10	運動会・ぎょう虫検査・園外保育（三日月山） くじら組秋合宿（風の子保育園・大島）
11	歯科検診・交通安全教室・ファイヤースクール・ほし組（延長保育）懇談会
12	下クラス公開保育と懇談会・クリスマスコンサート・観劇会・もちつき
1	どんどやき・第3回父親懇談会・園児検診②
2	節分・上クラス公開保育・子育てを伝える会・歯磨き指導
3	お別れ会・お別れ遠足・卒園を祝う会・進級式

施設間交流として風の子・大島との年長児交流、よりどりとのコマ遊び交流等、年間を通して定着してきた。職員にとっても学び合う機会になっている。

5. 特別保育事業

(1) 延長保育事業

延長保育	2時間		
登録利用者数 (月単位)	1時間延長	年 1472 名	1月平均 28 名
	2時間延長	年間 202 名	1月平均 4 名

年々2時間延長の利用者が減っている傾向にある。職員体制も厳しいため、2019年度からは、延長保育は1時間にし、前年度(2018)の利用家庭のみ2時間延長の個別対応とする。

(2) 一時保育事業

利用者数(日単位)	4時間超	年間延 7名
	4時間以内	年間延 13名

一時保育の希望はあり、問い合わせも多いが職員確保の問題もあり日常保育の受け入れは厳しい状況である。実績としては、次年度入園時の慣らし保育として年度末の数日の受け入れのみである。

(3) 障がい児保育事業

入所者数	軽度 2名	年間延 18名	1月平均 1名
	中度 0名	年間延 0名	1月平均 0名
	中度より重い0名	年間延 0名	1月平均 0名

1名が9月末で引越しのため退園。

認定は受けてないが、療育センターと連携している等、個別に配慮の必要な児童は多い。

(4) 保育所地域活動事業

① 世代間交流等事業

地域の高齢者との交流「ふれあいサロン」は毎月1回15名程の参加がある。保育園児との交流や健康講座など行った。「卒園児の小中学生やOB父母との同窓会」も実施した。

② 育児講座・育児と仕事両立支援

公開保育や懇談会の機会にはでは、保護者同士が育児の悩みなど交流できる時間を大切にしたい。卒園前の子どもを持つ親からの「子育てを伝える会」は、毎年、子育てに元気をもらえる場となっている。

6. 施設および設備の整備

区分	整備の内容	経費
エアコン工事	保育室7部屋・1F 共通保育室	5,590,000円
エアコン工事	2F ホール	4,644,000円
保育室トイレ工事	1.2歳児クラス保育室	893,430円
汚物流し改修工事	1.2歳児クラス保育室	163,188円
スロープ設置工事	ピロティ	270,000円
デスクパソコン	DELL デスクトップ (画像編集)	300,000円
ポンプ修繕工事	ポンプ配管取替	632,016円

7.職員の主な研修

区分	研修会名等	研修の内容
施設内研修	保育研究会（遊び・育児）	実践検討・学習
	保育実践検討会（チームK）	実践検討・学習
	保育総括会議	保育内容・学習
	障がい児研修	ケース検討・学習
	法人新人研修	就業規則・保育要綱
<p>職員会議「認め合い支え合う」職員集団づくり ～職員同士の共同を、どう創っていくか～</p> <p>目的 子どもも保育者も保護者も尊厳を持ち、同じ人間として同じ場所に立っている。お互いが、そういう関係にあることを確認し、困難や問題を具体的に解決していけるようにする。</p> <p>グループ討議 経験、年齢、職種、雇用形態、役割などの違いがある中で、職員同士が、どう、お互いを理解し認め合い、支えあい共に保育を創っていくか。日常保育の中での率直な思いを出し合った。</p> <p>成果 グループ討議の中では、改めて、それぞれの立場での思いを共有し考えあう機会になった。体制問題など難しい課題もあるが、大人も一人が尊重される関係づくりを大切に繋げていく。</p>		
施設外研修	福岡市保育協会主催研修 保育士会・主任研修	保育内容・人権研修
	コダーイわらべうたセミナー 保育研究部会・園長研究会	保育内容
	全国保問研集会（神戸）	保育内容・平和
	全国合研（大阪）九合研（長崎）	保育実践検討と情勢
	あいあいセミナー（障がい児）	障がい児理解と支援
	保育情勢大集会	保育運動
	コダーイ公開保育研修	保育実践
	経営懇主任セミナー（神戸）	主任の役割
	障がい児保育研修会	統合保育
	法人学習会	法人綱領・保育運営
	子育て保育のつどい	子育て講座・分科会
	キャリアアップ研修	乳児保育・保護者支援・安全衛生管理
	東区グループ研修	保育内容（絵本研究）

日中の研修は、今年度から始まった処遇改善に伴うキャリアアップ研修も含め、保育体制が整わず十分に送り出すことが出来なかった。各自、自己研修として施設外で学んだことも仲間と共有し、学びあい育ちあう雰囲気づくりを心掛けた。
 法人の理念もふまえた系統的な研修については課題である。

8. 苦情等解決機関の設置と実績

(1) 苦情等解決機関の設置

職 務	職 名	氏 名	連 絡 先
苦情解決責任者	園長	井上邦子	092-621-6331 (ちどり保育園)
苦情受付担当者	主任	中村智絵	092-621-6331 (ちどり保育園)
第三者委員	卒園児保護者	井上准子	092-621-3895
	紅葉会 監事	岡 慎和	092-511-6038

(2) 2018 年度の苦情等

機関での審議対象なし

9. 2018 年事業に係る特記事項

- ・待機児問題、そして、職員が安心して働ける環境づくりの為にも、保育士確保は最優先課題である。

IV. 玄海風の子保育園

1. 入所児童

年齢別	当初計画	実入所数	増減
乳児	108	159	51
1・2歳児	420	432	12
3歳児	252	264	12
4・5歳児	564	556	-8
合計	1344	1411	67

4月当初は113名でスタートした。0歳児は9名からのスタートで11月以降に育休から正規保育士が復帰したため、0歳児の受け入れを行うことができた。夏から幼児クラスでの退園が続き、その後の入園が全体的に少なかったため3月末で121名となる。

2. 職員の配置

(1) 正規職員

職種	期首配置	年度末	増減
園長	1	1	0
主任保育士	1	1	0
保育士	10	11	1
栄養士	2	1	-1
事務長	0	0	0
合計	13	13	0

◆4月より育休復帰1名 ◆10月・2月より復帰1名 ◆2月より産休1名

(2) 臨時職員

① 常勤職員

職種	期首配置	年度末	増減
保育士 (産休代替含む)	4	4	0
調理員	0	0	0
事務	1	1	0
合計	5	5	0

② 非常勤職員

職種	期首配置	年度末	増減
保育士	8	8	0
調理員	3	4	1
その他	6	7	1
合計	17	19	2

入所加算事業での60歳以上の職員で事務・保育のサポートを行ってきた。

(早出・子育て支援のサポートなど) 体調不良で年度途中での退職が2名あった。

3. 保育の重点方針

(1) 日常運営

社会福祉法人紅葉会の理念や保育要綱に基づいた保育方針や、職員の就業規則を理解した上で、ひとりひとりの職員が組織の中で自分の役割と責任を認識して仕事をすすめていくことを重視し確かめあってきた。運営の組織化と合わせ、子どもひとりひとりを尊重し

た保育の実践のための子ども理解を深めるために学習を位置づけ、一年間継続的に行なってきた。また前期・後期で客観的に園長・主任で保育観察をしていった。

職員会議・クラス会議 共通学習テーマ（月1回 夜2H）

参加者：正規職員・クラス担当常勤職員・休み代替職員

テーマ：「子どもの尊重のための子ども理解」～保育観の共有へ～

「子ども理解」をテーマに保育の中でのエピソード（事実・手だて）をだす

みんな誰も日々の保育の中で一生懸命子どもと向き合っている。

それぞれが悩みを抱え「～ちゃんの困った姿」に振り回されてしまいがちになる

毎日も現実ある。ひとりで悩んだり、「子どもが・・・」と考えるより、その子どもの姿

（事実）から子どもをどう捉え（子ども理解）自分がどうすればいいか、クラスの

保育の中でどうあったらよいかを考えあう機会にする。

毎月の各クラスでめざしたいこ

クラス担任みんながエピソードを出しあい学習を位置づける（月1回昼1.5H）

例）「Bくんの安心できる居場所づくりって？」

担任みんなが率直に話せる関係づくり

子どもの見方・保育観を一致させていく

子ども理解を深める

(2) 保育内容

自然に恵まれた保育環境を生かし、子どもを真ん中にして保護者も職員もともに育ちあうために紅葉会の保育要綱・保育方針を再確認し、子どもの家庭環境や宗像の地域性を十分に考慮して日常の保育をつくっていくことを大切にしていた。

◆子どもを尊重する保育の実践のための大人の率直な伝え合い・学び合いの関係づくりを大切にする。また今まで積み重ねてきた保育実践から保育の本質を学び確かめあう。

・ひとりひとりの子どもを尊重し、主体性を育てる保育の実践のために、何のために流れる日課や育児担当制を行い、子どもの何が育つのか（一斉保育ではないことの意味あい）をもう一度確かめ合う。

・幼児クラスは乳児クラスからのつながりから主体性（自己決定）を尊重し、生活習慣の自立～

・大人と協同しながら自分たちの生活づくりをめざしてきた。またあそびの充実のための環境づくりや助けを必要とする大人の援助やことばかけについても、エピソード記録や観察をもとに客観的に手だてを考えあえるようにしてきた。（学習総括参照）

◆統合保育の中で違いがあることをあたり前のこととして、お互いを認め合える関係を大切にする。

・軽度の発達障害や配慮を必要とする子ども多くなる中、クラスとともに子ども理解とひ

とりひとりが安心して過ごせる環境づくりに努めてきた。また、宗像市の発達支援センターの巡回相談（年2回）は9名ほどが対象児である。今年から年長中心での観察となるが、他クラスもお願いし可能な限りみてもらうことができた。

- ・小学校は運動会への行事参加や就学前園訪問（4校区程度）も引き続き実施した。
- ・ここ数年、発達に助けが必要な子どもの入園や見学希望が増えているが、職員体制の不足もありなかなか受け入れができないことが多かった。
- ◆職員間の信頼関係を土台に職員集団の質の向上と専門性を高める。
 - ・子どもを尊重する保育の実践のためには、園の方針のもとで大人同士の信頼関係と連携が大切であることをいつも立ち返り、保育のあり方を振り返ってきた。
 - ・コミュニケーションが苦手な職員も発言しやすいようにクラス会議での学習を基本にしたことで子ども理解を深め、率直に自分の意見をだしあい考えあうことができた。
 - ・今後も職員ひとりひとりがやりがいをもって生き生きと働き、職員集団の中での自分の役割を意識し、主体的に保育できるようにしていきたい。
- ◆安全管理
 - ・日常の安全管理と合わせて事故防止に努めてきた。非常防災時の対応として職員担当（保育2名・給食1名）を決め、テント下での野外非常食（かまどでの炊き出し）を初めて実施した。
 - ・手順のあり方や容器などについての課題が明確になったことは良かった。

具体的課題：材料の配置（場所）について・手順のあり方を明確にする
 容器を購入しているが大きすぎて食べにくかったり、0歳児は軽すぎてもちにくいため検討する
 - ※防災マニュアルに地震に加え土砂災害も加えたため職員での周知に努める。
 - ・非常食については水・米以外の備蓄も今後行っていく。
- ◆施設間交流
 - ・姉妹園（ちどり保育園・大島保育所）との施設間交流を通して、年長児同士の刺激も大きくお互い見合ったり関わりあう姿も見られた。職員の施設間公開保育は体制上の厳しさもあり、実施があまりできなかった。

(3) 地域・他団体との連携

- ◆子どもをとりまく環境や保育情勢に関する動きを園として保護者や地域にもできるだけ発信することを意識してきた。保育料の無償化や給食費実費負担や保育士不足の問題などできるだけ具体的に伝えていったが運動の拡がりとしては課題が残った。子どもの権利保障やゆたかな保育のために今後も伝えながら、共同での運動につなげていきたい。

4. 通常保育の年間行事

月	主な行事
4	入園を祝う会・園内交流・園説明会・新クラス懇談会
5	かぼちゃ組春合宿・園庭整備
6	乳児保育参加・ぎょう虫検査・内科・歯科検診①
7	合同公開保育・幼児クラス懇談会・地引網・4・5歳児川・海あそび
8	平和のつどい
9	敬老のつどい・合同学習会（保護者会・園）・園外保育
10	運動会・園児内科検診・歯科検診②
11	かぼちゃ組秋合宿（和白干潟）・風の子まつり
12	乳児（0・1・2歳児）公開保育・もちつき

1	どんど焼き・幼児（3・4・5歳児）公開保育
2	節分
3	お別れ会・春の遠足・卒園を祝う会

5. 特別保育事業実績

(1) 延長保育事業

- ◆就労支援事業の一環として実施する。
- ◆夕方保育として少人数での子どもたちの生活を大切に「縦割りでの保育」を実施する。

	区分	年間延人数	月平均人数
登録利用者数	1時間延長	120	10

(2) 一時保育事業

地域のさまざまな保育ニーズに応じていく目的で受け入れに努力をはかってきたが、保育士不足で在園児の育休中の受け入れ（4歳児）となった。

	区分	年間延人数	月平均人数
利用者数 (日単位)	4時間超	0	0
	4時間以内	12	12

(3) 障害児保育事業

軽度の発達障害の子どもたちも含め、発達支援センターとの連携を行なっていた。

- ・巡回相談でのケース検討（2018年度より年長児を中心に対象児をだす）
- ・小学校・発達支援センター・園との連携
(小学校からの園見学・年中児検診)

2018年度は転居も多く、14校の小学校への送り出しを行った。

毎年7校区程度の小学校への入学があるため、発達に支援が必要な子どもたちについては特に各小学校からの園見学実施があることで、担任からの申し送りやその子への必要な助けを伝える場になっている。

	区分	年間延人数	月平均人数
利用者数	軽度	24	2
	重度	0	0

(4) 保育所地域活動事業

- ◆世代間交流事業
- ◆育児講座（ぽかぽかくらぶ）
- ◆異年齢児交流事業
- ◆地域の特性に応じた保育需要への対応

6. 施設および設備の整備

区分	整備の内容	経費
施設整備	雨漏り修繕工事	451,000
	さくらんぼ組トイレ床修繕工事	162,000
	ほうれんそう組エアコン修繕	124,740
	ゆうなぎ エアコン修繕	243,972

7. 職員の研修

区分	実施年月等	研修会名等	研修内容	参加数
施設内研修	12月	チーム保育のためのコミュニケーションと職員集団づくり	講師：不知火クリニック 日高 崇	30

			博 氏	
	10回	保育エピソード学習 (職員会議・クラス会議)	エピソード記録をもとにグループでの討議	200
	2回	新人研修	就業規則・保育要綱	2
	7月	施設間公開保育	保育内容	1回のみ実施
施設外研修	36回	宗像市保育協会 主催研修	保育内容	50
	3回	全国経営懇セミナー	経営研究・主任研修	1
	6月	全国合研大阪集会	保育内容・保育情勢	3
	6月	コダーイ保育セミナー	保育内容	4
	8月	全国保問研東京集会	保育内容と情勢	3
	12回	コダーイ乳児部会B	保育内容	6
	12回	コダーイ幼児部会	母語教育	6
	1月	保育のつどい		10
		他園公開保育と研修		10

全体職員研修

参加者：正規職員・クラス担当常勤職員・休み代替職員

テーマ：チーム保育のためのコミュニケーションと職員集団づくり

方法：自分の良いところを3つずつ・もっとこうあったらいいなと思うところをひとつ伝え合う

自分自身の取り扱い説明書を書いて伝え合う

8. 苦情等の解決

(1) 苦情等解決機関の設置

職務	職名	氏名	連絡先
苦情解決責任者	園長	奥村 美香	0940-62-9088 (玄海風の子保育園)
苦情受付担当者	主任	五郎丸 文	0940-62-9088 (玄海風の子保育園)
第3者委員	岬コミュニティ 一副	桑野 道孝	0940-62-1716
	紅葉会監事	安部 早智子	090-8763-4418

(2) 方針

苦情処理委員会は年3回実施、園に対する意見・要望・苦情を園運営に生かしていくために第3者委員と連携し解決にあたっている。

2018年度、園に対する要望は数回あったが園長・主任・クラスで対応し、職員間でも確認しあう場を設けてきた。(かみつき・保育士とのコミュニケーション)

V.学童保育よりどりちどり館

1. 入所児童の延べ人数

1年生で1名、3年生で1名、4年生で1人、計3名の途中退所、また、2年生で1人途中にゆしよがあった。

学年別	当初計画	実入所数	増減
1年	96	90	-6
2年	72	78	6
3年	168	162	-6
4年	172	169	-3
5年	36	36	0
6年	48	48	0
中学1年生	12	12	0
合計	604	595	-9

2. 職員の配置数

①職員

年度途中での人数変更は無し。

職種	期首配置	増減	年度末
指導員	1	0	1
指導員（常勤臨時）	2	0	2
補助指導員（非常勤）	4	1	5
合計	7	4	7

3. 2018年度 保育の重点方針と実践

下記の重点方針のもと、理論と実践の統一をすすめて、子どもの最善の利益となりうる保育内容を目指して保育方針や保育内容をつくりあげていった。

1) 日常運営

- ①職員4名体制で、それぞれの持ち味を生かしつつ専門職としての専門性を高めることを意識しながら保育をすすめた。
- ②子ども理解や実践に関しては、ただの個人の主観によるものではなく、必ず理論を基にしながら、子ども理解／カンファレンス⇒実践構想⇒実践を重ね、専門性を高めてきた。
- ③地域との交流（触れ合い）はまだまだ少ないものの、地域の子や大人など、子どもたちが多様な他者と触れ合いながら保育をすすめてきた。
- ④保護者の気持ちに寄り添い、子どものことを語り合いながら、“子ども”の最善の利益の理念に基づき、保護者“たち”と話し合いながら共同の子育てをすすめた。

2) 保育内容

①【自分づくり】

- ・ホッとでき、ダラダラゴロゴロとくつろげ、ダメ（ネガティブ）な自分をさらけ出しながら安心して過ごせる「空間」と「関係性（支援員・仲間）」をつくった。
- ・自分のやりたいこと（遊び、活動）を仲間と共に「自由」にのびのび思いきりやれる自己実現の場としての放課後をつくった。
- ・くらしやあそびの中で、様々なことに挑戦したり様々な他者と関わったりしながら、新しい自分との出会い（発見や成長）を喜んでいった。

②【仲間づくり】

- ・あるがままー自分の思いや意見が言い合えて、体も心（言葉）も丸ごとぶつけ合いながら、お互いの違いやおんなじを知り、分かち合う。お互いのあるがままを、おもしろがり、楽しみ、愛おしむ。
- ・あこがれー「この人といると安心する。」「この人が好き。」「このあそびしてみたい。」「この遊びが好き」「あの人みたいになりたい。」「一緒に遊びたい。」など、『安心感』『好意』『好奇心』『興味』『憧れ』『願望』等といった子どもの思いや願いを育みながらつながる。
- ・あてにされるー多様な活動の中で、自分の持ち味や出番、役割を果たしたくなる機会を保障する。

以上の3点を意識して、仲間関係をつくっていった。ただし、習い事等で十分な時間遊んだり関りあったりできない子に関して関係性の乏しさもある児童もいる。

また、特別なニーズを持つ子どもたちもいるが、その特性や持ち味もふくめたありのまま姿がある程度は受け入れられており、自分を抑えながら過ごすことはなく自由に過ごさせている。

③【あそび】

- ・「ワクワクドキドキハラハラウキウキ」etc と、心を揺さぶられるような多種多様なあそびの中で、自分をのびのび（伸び伸び）と表現し、いきいき（生き生き）と過ごし、心の底から「楽しかったー！」と言葉がこぼれるような、キラキラ輝く放課後の世界を創造してきた。

⑤【体験】

- ・酷暑の影響で、行事（外出等）の機会が減ってしまった。また、季節や地域の行事等の保育内容への取り込み方はまだ模索中である。

4. 通常保育の年間行事

長期休みを中心に下記の行事を行ったが、夏休みは酷暑の影響でこれまでより外出ができなかった。

月	主 な 行 事
4	1年生歓迎会・説明会
5	女子懇談会・太宰府天満宮こま大会
6	懇談会・太鼓WS（保護者会）
7	ちどり保育園平和夏まつり（太鼓出演）
8	川遊び(猪野川)・クッキング・プール・おやつづくり 外出（少年科学文化会館） 松島小学校校区夏祭り（太鼓出演）
9	親子キャンプ（保護者会）・高学年合宿
10	秋祭り（原田西公園）
11	風の子祭りバザー出店・懇談会
12	学童こま交流会・クリスマス会・アイススケート 入所説明会 太鼓WS（保護者会）
1	ちどり保育園年長児とのこま交流、おばけ屋敷
2	節分・懇談会
3	卒所旅行・卒所式

5. 特別保育事業

1) 延長保育事業

①就労支援事業の一環として実施

②夕方保育として利用者の生活を大切に実施

	区分	年間延人数	1月平均人数
登録利用者数 (月単位)	1時間延長	197名	16名

2) 障がい児保育事業

	区分	年間延人数	1月平均人数
入所者数	軽度	24名	2名
	中度	0名	0名
	中度超	12名	1名

その他、認定は受けていないが、発達障害のサスペクト児で特別なニーズを持つ児童が数名在籍している。

6. 施設および設備の整備実績

区分	整備の内容	経費
修繕	なし	0円

7. 職員の研修実績

下記の研修に参加し、学習を行った。

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加数
施設外研修	5/21	新人研修	保育内容	2
	6/23, 24	学童保育学会	保育内容と情勢	1
	6/17	全国学童保育指導員学校 九州会場	保育内容と情勢	1
	9/9～10	九州保育団体合同研究集会	保育内容と情勢	2
	10/14	主任者研修	保育内容と情勢	2
	10/20, 21	全国学童保育研究集会	保育内容と情勢	2
	11/25	新人研修	保育内容	2
	1/20	子育て保育のつどい	保育内容と情勢	3
	2/24	福岡県学童保育研究集会	保育内容と情勢	2

VI. 公益事業／大島へき地保育所

指定管理者制度による運営を継続、3期目となる。通算9年目。子どもたち一人ひとりを尊重し、「自己肯定感」「安心して自分らしくいられる居場所、関係」づくりを大切にしてきたことが、保護者や地域に対して（保育の可視化：全島への配布物や掲示物、園外活動を中心とした日常的なかかわり、第三者評価、保護者アンケート）に伝わっていることがわかる。

(1) 入所児童 増減なし

年齢別	当初計画	実入所数	増減
2歳児	4	4	0
3歳児	8	8	0
4歳児	4	4	0
5歳児	5	5	0
合計	21	21	0

(2) 職員の配置

雇用の継続で安定した保育体制を組むことができた。園長は、大学やその他養成機関への講師を担った。主任が保育の中心となり、保育内容の充実と安全管理に留意し体制を維持した。

職種	期首配置	増減	年度末
園長	1	1	1
主任	1	1	1
保育士	1	1	1
常勤保育士	1	1	1
非常勤保育士	1	-1	0

(3) 保育の重点方針

指定管理者制度導入より運営Ⅲ期の1年目。「異年齢保育」の中で、その子の「自分らしさ」を尊重し、各年齢、個人の発達保障にも重点を置いて保育内容の充実を図った。

1) 日常運営：「紅葉会」「大島の暮らしの中の保育」私たち職員の資質の向上

「働きがいのある職場とは」紅葉会の理念、歴史、「共育て共育ち」、「自己肯定感」に焦点をあて、子どもの成長、発達、大島の保育理念を柱とし、保育士としての専門性と社会性の構築に努めあってきたが、「管理的」に子どもにどの子どもも平等に保育を受ける権利を保障し、家庭の

- ①一人ひとりが自分の役割と責任を認識して仕事を推進した。
- ②「働きがいのある職場づくり」とは～
- ③市との連携を密にはかり、保育内容の充実と施設管理の安全性に留意した。

2) 保育内容

- ①これまでの保育実践を土台に「異年齢保育」の充実へ。生活クラスを土台に「つながりの中でこそ育つ生活力」が保育の柱となった。
- ②地域の歴史や文化に学び、地域・小中学校との交流や地域への日常的な関わりの場、行事、園外保育の実施をより計画的に実施し、内容の充実を図った。

3) 地域子育て支援事業

- ①「高齢者との交流」、「卒園児・小・中校生との交流」、「在園児保護者との連携と家庭支援」の実施

- ②未入園児の交流保育と園庭開放の実施
- ③未入園児、小学校児童「夏祭り」招待・交流
- ④放課後の小学生・中学生の居場所づくり

(4) 通常保育の年間行事

月	主な行事
4	入園を祝う会 親子交流 ぎょう虫検査① 内科検診①
5	保育参観・懇談会 ちどり・風の子御嶽山登山交流 保護者主体の除草作業
6	歯科検診① 小中学校文化祭 園庭開放
7	クリーンアップ 夏祭り プール遊び スポーツ学科身体づくり お泊り保育(年長)
8	中津宮七夕祭 1学期保護者会懇談会 盆踊り 花火大会 そうめん流し
9	ぽかぽかデー お月見会 中3交流 3園リズム交流
10	みあれ祭 全島運動会 秋の遠足 個人面談 ぎょう虫検査② 内科検診② 芋ほり
11	風の子祭り親子レク 歯科検診② 園庭開放
12	小学校おもちゃランド 小中学校もちつき お楽しみ会 コミュニティー、地域、大学生合同クリスマス会 2学期保護者会懇談会
1	七草 鏡開き・どんどやき 保育参観 年長就学懇談会(学習) スポーツ学科体力測定
2	節分祭 3学期保護者会懇談会 入園進級説明会 冬の遠足
3	小1絵本読み 卒園クッキング(カレー) 卒園式 進級 終園 就学面談

(5) 特別保育事業

1) 延長保育事業

①就労支援事業の一環として実施 2018年度実績(1月2名のみ)

	区分	年間延人数	1月平均人数
登録利用者数	1時間延長	0名	0名

2) 障害児保育事業

- ①発達支援センターとのケース巡回連携を継続。
- ②小学校と支援センター、園との連携を強化。
- ③発達支援を要する園児への支援、保護者支援の方法。対象児童3名発達支援センターの介入

3) 保育所地域活動事業 : 下記の事業を実施していた

- ①世代間交流等事業(地域の高齢者玄寿会との交流、小中学校との提携、未入園児との交流、卒業生との交流の実施)
- ②地域の特性に応じた保育需要への対応(地域への園外活動・文化歴史体験)

(6) 施設および設備の整備

なし

(7) 職員の研修報告

主任：宗像福津保育連盟の「研究」委員として、「子どもとあそび」をテーマに研修
 園長：九州保育団体合同研究集会「異年齢保育」の分科会運営委員を担う
 職員：体調管理と仕事に向かう姿勢等、自己研鑽の年となった。自主研修「保育所保育指針」の理解を深め、「個人の尊厳」を自己の成長テーマとし実践に生かしている

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加数
施設内研修	1回	保育研究会（遊び・育児）	わらべうた リズム運動 音楽教育の会の歌	4名
	6回	保育実践報告、実技報告	テーマにそって実践検討	4名
施設外研修	2回	保育協会主催研修	保育内容	4名
	8月	全国保育問題研究集会	保育内容・保育情勢	1名
	9月	九州保育団体合同研究集会	保育内容・保育情勢	2名
	6回	宗像地方保育所連盟	保育内容・保育情勢	4名
	5回	福岡保育問題研究会	音楽部会	1名
法人	1回	「綱領」学習会	綱領	2名
	1回	「綱領」を祝う会	綱領と情勢学習	4名
施設間交流	3回	姉妹園公開保育・交流	乳児・幼児公開保育・リズム	2名
保育センター	1回	保育問題協議会実践交流会	保育所保育指針	2名
	1回	宗像・糟屋ブロック研修	保育所保育指針	2名
	1回	子育て保育の集い	保育情勢	2名
	1回	さくらんぼリズム研修	保育内容	1名
	1回		保育運営・保育内容	1名

(8) 苦情等の解決

1) 苦情等解決機関の設置

職務	職名	氏名	連絡先
苦情解決責任者	園長	奥村 智美	0940-72-2534（保育所内）
苦情受付担当者	主任	宮本 千里	0940-72-2534（保育所内）
第三者委員	地域在住・有識者	村上 秀一	090-3738-2670
	地域在住・有識者	平川 かずよ	090-5725-9404

2) 2018年度の苦情実績

機関での審議対象なし

3) 苦情処理委員会の実施

7月、11月、2月と、年3回定期的に、委員会を開催し、園児の様子と保護者、地域の要望などを吸い上げながら、雇用の促進と次世代の自治リーダーの育成に視点をもって議論を深めた。

(9) 2018年事業に係る特記事項

地域の世代間交流事業は、以下の事業を行った

- ① 交流事業（小中学校・ちどり、風の子保育園年長児との御嶽山登山）、海遊び交流・風の子祭り親子レク・ちどり、風の子年長児とのリズム交流）
- ② 地域との交流（日常的に山探検を開催し、地域の方に声をかけ、同行してもらい、保育内容の理解、子どもの育ちの理解へ）
（コミュニティとのソーメン流し・除草作業・クリスマス会・もちつき）
ソーメン流しの竹伐り、もちつきの準備など人手不足が深刻になっている
- ③ 未入園児との交流保育、園庭開放、育児相談を通年実施した。
- ④ 地域行事への参加（地域・小中学校との合同行事）
- ⑤ 高齢者の方との交流（玄寿会との交流）（ふれあいセンターとの交流）